プレスリリース

館林市教育委員会文化振興課

報道関係者各位　　令和7年9月26日

ご取材用資料

| | |
|---|---|
| 展　示　名 | 田山花袋記念文学館　特別展　「花袋が見た戦争」 |
| 会　　期 | 令和７年 10 月４日(土)～令和７年１１月２４日(月・振替休日)　４６日間（休館日をのぞく）<br>休館日：月曜日、10 月 14 日(火)、11 月４日(火)<br>※10 月 13 日、11 月３日、24 日は開館 |
| 会　　場 | 田山花袋記念文学館　企画展示室（住所：館林市城町１-３） |
| 開催の趣旨 | 田山花袋が活躍した明治時代は、世界、日本国内ともに情勢が大きく動いた時代でした。その最たるものが国家間での近代戦争であり、日本が世界へ向けて進出しようと模索していた時代でもあります。<br>花袋が大きく関わったのは、明治 37 年(1904)に起こった日露戦争です。私設写真班の記者として従軍した花袋は、戦場をつぶさに観察し、戦況報道用の記事、そして家族、友人への書簡を戦地から日本へ送り続けました。<br>当時の資料、雑誌からは、花袋が「見た」戦場のようす、戦地での生活を伺い知ることができます。小説家としてだけではない、報道に従事した花袋の一面をお楽しみください。 |
| 展示内容 | 資料点数:約60点<br>《序章、明治時代の雑誌と文壇》<br>明治時代の雑誌の内容や文壇の動き、「小説」というジャンルのはじまりから自然主義文学の起こりを簡単に解説しています。<br>《第一章、従軍する花袋》<br>日露戦争が始まった明治 37 年、田山花袋は私設従軍写真班として戦地に赴きました。従軍前～初期にかわされた書簡などを展示します。<br>《第二章、南山の戦い》《第三章、得利寺の戦い》《第四章、大石橋の戦い》<br>従軍中の花袋が「見た」主な観戦地について、花袋が書いた記事を中心にご紹介します。<br>《第五章、無念の離脱》《第六章、日露戦争の結末》<br>決戦の地、遼陽へ赴く直前、花袋を病が襲います。流行性胃腸熱にかかった花袋は入院を余儀なくされ、戦線から無念の離脱となりました。その後、日露戦争終結までの出来事を簡単に紹介します。<br>《第七章、帰国後の花袋》<br>帰国した花袋は、数々の作品を手掛けた他、館林で凱旋講演を行いました。作品の紹介や講演時の資料を展示します。<br>《第八章、「日露戦争実記」発行秘話》<br>花袋が勤めていた出版社、博文館が発行した「日露戦争実記」は、当時 10 万冊以上売れる大ヒットを記録し、花袋の名を広めることにもつながりました。「日露戦争実記」発行までの苦労や工夫をご紹介します。 |
| 入　館　料 | 【一般個人】220 円【一般団体】110 円(20 名以上)【中学生以下無料】<br>ただし、家庭の日(10/5、11/2)と群馬県民の日(10/28(火))は入館無料 |

| | |
|---|---|
| 展示解説会 | 家庭の日(10/5、11/2)と群馬県民の日(10/28(火))　14：00から30分程度 |
| 問い合わせ | 【担当】館林市教育委員会　文化振興課　文化財係　主事・塚原未来<br>Tel：0276−74−4111（内線661、662）<br>Mail：bunka@city.tatebayashi.gunma.jp |
| 展示資料一部およびチラシ | <br>田山花袋絵ハガキ(利里子宛)<br>明治37年7月27日<br> <br>第二軍写真班員<br> <br> |

【問合せ】館林市教育委員会 文化振興課文化財係（群馬県館林市城町 3-1（館林市文化会館） TEL0276-74-4111）【主催】館林市教育委員会

日本遺産

館林の里沼

明治37年日露戦争

花袋は第二軍寫眞班記者として従軍する

2025 10/4 土 ～ 11/24 月

# 特別展 花袋が見た戦争

1

2

3 4

従軍記者時代の花袋（32歳）

南山最後の陥落は実に無此上奇観、夕陽海色、月影、火炎、材料山の如く候、生は幸に無事、御安心被下度候

1『第二軍従征日記』初版（明治 38 年 1 月 23 日発行）
2 妻・利佐子宛 絵ハガキ（明治 37 年5月 21 日）
3「日露戦争実記」第 28 編（明治 37 年9月 3 日発行）
4「日露戦争実記」第 1 編（第 7 版）（明治 37 年2月 20 日発行）

**会　場**
田山花袋記念文学館　企画展示室

**開館時間**
9：00～17：00（入館は16：30まで）

**休 館 日**
月曜日（10/13、11/3、24 は除く）、10/14(火)、11/4(火)

**入 館 料**
個人 220 円 / 団体 110 円（20 名以上）
（中学生以下、障がい者手帳持参および付き添い 1 名は無料）
※ 毎月第一日曜日（家庭の日）、10/28（火）群馬県民の日は入館無料の日です。

## 展示解説会
参加無料　申込不要

日時：10/5（日）、28（火）、11/2（日）
各日 14:00～
▶ 直接会場にお越しください

田山花袋記念文学館
TAYAMA KATAI LITERATURE MUSEUM
〒374-0018 群馬県館林市城町 1-3　TEL（0276）74-5100

# 特別展「花袋が見た戦争」

令和７年
10月４日(土)～11月24日(月)

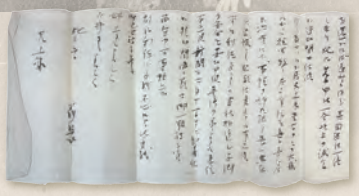
田山花袋が活躍した明治時代は、世界、日本国内ともに情勢が大きく動いた時代でした。その最たるものが国家間での近代戦争であり、日本が世界へ向けて進出しようと模索していた時代でもあります。

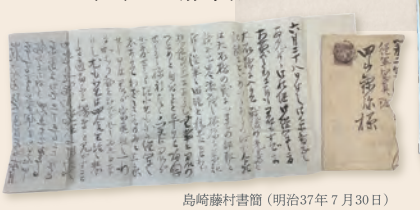
花袋が大きく関わったのは、明治37年（1904）に起こった日露戦争です。私設写真班の記者として従軍した花袋は、戦場をつぶさに観察し、戦況報道用の記事、そして家族、友人への書簡を戦地から日本へ送り続けました。

当時の資料・雑誌からは、花袋が「見た」戦場のようす、戦地での生活を伺い知ることができます。小説家としてだけではない、報道に従事した花袋の一面をお楽しみください。

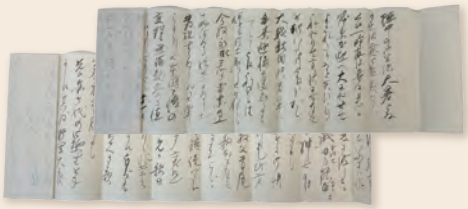
## 展示構成

- 序　章　明治時代の文壇
- 第一章　明治時代の雑誌の立ち位置・影響力
- 第二章　従軍する花袋
- 第三章　南山の戦い
- 第四章　得利寺の戦い
- 第五章　大石橋の戦い
- 第六章　無念の離脱
- 第七章　帰国後の活躍
- 第八章　「日露戦争実記」発行秘話


田山花袋書簡（兄実弥登宛）
（明治37年７月５日）


島崎藤村書簡（明治37年７月30日）

「征露紀念第二軍写真帖」（明治37年）


柳田国男書簡（明治37年８月３日）

手帳（懐中日記）（明治37年）

あぶなく捕虜　田山花袋
「少年世界」第10巻14号（明治37年10月20日発行）

期間限定

雑誌「日露戦争実記」などに掲載された、花袋の短編作品を一部公開！
エントランスでお読みいただけます。

「ポケットの手簡」
「敵襲」「莫逆の友」
「あぶなく捕虜」
ほか

振古未曾有なる征露の役に、自分が従軍したのは、実に此上も無い幸運である。砲烟弾雨、それが自分の稚い思想に大なる影響を及ぼしたのは無論のことで、自分は人間最大の悲劇、人間最大の事業を見たとすら思つたのである。

『第二軍従征日記』諸言

第二軍観戦私記　田山花袋
「日露戦争実記」第26編（明治37年８月13日発行）

この夜、この暗夜に、わが軍は既に明十五日の戦を策し、進軍を命じたり。翌朝、夢より覚れば砲声！砲声！軍事司令部は既に未明に前進せりと言ふに、われは其寝床を蹴って立ち、直ちに準備を整へて疾駆しつ。

日露観戦記「日露戦争実記　第二十三編」

手を取りし友は半ば戦死し、机を同うせし同僚も亦多を失ったのであるものを……。誰か人として平生の沈着なる態度を保つことができやうぞ。これが戦争の悲劇である。

『第二軍従征日記』

## 交通案内

■ 東武伊勢崎線「館林駅」より
東口を出て約1km直進、市役所前交差点を渡り、道なりに進む。丁字路の信号を右折、約250m直進。(徒歩約30分)
またはタクシーで約10分。

■ 東北自動車道館林インターチェンジより
料金所を館林方面へ出て、国道354号線を約3km直進、緑町交差点を右折、約1km直進し市役所前交差点を右折、道なりに進み丁字路の信号を右折、約250m直進。(約20分)

※車でお越しの方は、文学館前の交差点を左折し、すぐ右手にある尾曳稲荷神社の駐車場(無料)をご利用ください。


TAYAMA KATAI LITERATURE MUSEUM
田山花袋記念文学館
〒374-0018 群馬県館林市城町1-3　TEL (0276) 74-5100

問合せ
館林市教育委員会 文化振興課文化財係
(群馬県館林市城町3-1（館林市文化会館）　TEL0276-74-4111)